

相談支援はこぶね 令和4年度事業計画書

令和4年3月を迎えることになり、皆様のご指導、ご謙遜、ご鞭撻によって相談支援事業所として成長させていただき、感謝を申し上げます。当初の計画とは異なる部分はあるものの、徐々に形になっていく事業所を今後いかにして運営するか、事業計画の形を借りて皆様と考えていきたいと考えます。

令和4年1月31日現在

契約者数	障害者	15名	障害児	0名	計	15名
契約終了	障害者	0名	障害児	0名		
契約解除	障害者	0名	障害児	0名		

現在の業務内容

新規相談希望者の面台

計画案の作成

サービスモニタリング

事業所見学等の便宜

申請等手続き代行

その他諸相談

(今後の計画 課題)

令和3年8月に相談支援専門員であった廣瀬の離職に伴い、これまで相談支援はこぶねをご利用されておりましたご利用者様に対しても、令和3年8月時点で障害者48名、障害児41名、計89名に対し、現在(令和4年1月)は、障害者15名、障害児0名、計15名となり従来通りのサービスや支援の継続は困難であり、苦渋の選択ですが多くのご利用者様との契約を終了せざるを得ないものとなりました。

現在の「相談支援はこぶね」を利用されているご利用者様はフリーダム創生又はNPO法人アビリティおおさかをご利用されておられ、「相談支援はこぶね」も少しずつではありますが、契約者数も増えつつある状況ではあります。

相談支援専門員(非常勤)1名、見習い職員1名を配置しております。

令和3年度事業計画案にありました計画や展望におきましては、「発達障害」に着目し障害児支援を通じて良いサービスの提供を計画しておりましたが、次年度の計画では方向性が異なることもございますのでご了承頂きますようよろしくお願い致します。

- ① 相談支援はこぶねの在り方
- ② 報酬に対しての考え
- ③ 人材育成について

① 「相談支援はこぶね」の在り方について

令和3年度事業計画案にありました計画や展望におきましては、「発達障害」に着目し障害児支援により良いサービスの提供を計画しておりましたが、改めてご利用者様を目を向けると、利用者様の高齢化や障害の重度化が懸念され、すでに3名のご利用者様は65歳を迎え介護保険の利用が開始されておられます。従って、今後の相談支援事業所としての展開・方向性と致しましては、契約者数を増やし相談支援事業の拡大を目指すよりも、縁の下力持ちとしての役割を持ちフリーダム創生やNPO法人アビリティのおおさかさんとの連携を強め、ご利用者様1人1人と親身になり、より良いサービスの提供及び各事業所と連携を図ることで利用者様が安心して暮らしているようお役に立てれば幸いであると考えております。

② 報酬に対しての考え方

前年度の予算額と比べると現在の契約者数では別紙のとおり年間60万円程の収入が見込まれますが、人件費への支払いにおいては極めて困難であるのが現状であります。しかしながら、前年度の業績において多忙な業務スケジュールを踏まえると、上記①の意向に沿いながらの契約者数の確保が必要であり、前年度のような実績とまではいかずとも、相談支援を通じてフリーダム創生の生活介護・就労継続支援B型及び姉妹系列のNPO法人アビリティおおさかさんへの利用へと繋げ、相談支援のみならず総合的に実績を積み上げていき収益の向上も図っていくのが望ましいと思います。

③ 人材育成について

現在、相談支援専門員はと生活介護事業（生活支援員）と兼務で業務を行っていますが多忙な為、今は見習い職員と共に職務を役割分担して業務を行っています。しかし将来的には、職員の定年退職者も想定されますので、今後もフリーダム創生を必要されるご利用者様の為にも、新たな人材の確保・教育が必要であると思います。まずは令和4年度に開催される相談支援初任者研修の実施を受け相談員1名増員を検討していく。尚、コロナウィルスの影響により受講時期は未定でありますので、その間にも既存利用者さんへのケア及び新規利用者様の確保等の実績を積み重ねていくのが良いかと考えております。